

年 頭 所 感

会 長 まつ か はる みち
松 家 治 道



明けましておめでとうございます。コロナ禍第8波の中ではありますが、昨年とは幾分異なり、行動規制のない“ウィズコロナ”でのお正月を、皆様ご家族ともども健やかに迎えのことに存じます。

当会と致しましては、会員皆様並びに道庁をはじめとした関係各位とともに新型コロナウイルス感染症と戦うべく受入医療機関や検査診療外来の確保、ワクチン接種体制の拡充に取り組んでまいりました。改めて皆様のご協力に深く感謝いたしますとともに、続くコロナ禍においての、これまで同様のご理解ご協力を改めてお願い申し上げます。

ここで昨年を振り返りますと、新型コロナ禍に加え、2月のロシアによるウクライナ侵攻の惨禍と資源価格の暴騰、英首相の相次ぐ交代、欧州における極右勢力の拡大と、懸念の多い国際情勢となりました。また、高インフレに対する各国の金融引き締めは景況を大きく悪化させ、それに伴う米金利の上昇は米国株の記録的な下落と急速なドル高円安をも惹起し、英ポンドも史上最安値を更新、ユーロがパリティ割れとなるなど、世界経済は正念場を迎えています。

物価の急上昇、異常気象、格差の拡大、人口問題など、更なる不透明な時代の到来のリスクに直面する今日です。

その情勢で迎えた米中間選挙では、「ねじれ」とはなったものの、囁かれていた“Red Wave”が“Red Mirage”に終わったことで、米政権がレームダック化しなかった点では幸いであったとも思われます。

しかし露国に加え、台湾への武力行使も辞さないとする習近平体制は側近で固めて異例の3期目に突入し、またミサイル発射を繰り返す北朝鮮など、権威主義と民主主義の対立が鮮明となりつつあります。世界大戦への足音が聞こえるような情勢ながら、なんとか各国の外交努力による平和の維持を願います。

一方国内ではコロナ禍の合間を縫って、冬季五輪で日本人選手の活躍や、有観客で行われた夏の甲子園においては、初の「白河の関越え」となる仙台育英高校の優勝、MLBで大谷選手が投打の記録達成など、明るい話題もありました。しかし政界では安倍元首相暗殺事件を契機に政治と宗教をめぐる問題が噴出し、閣僚の相次ぐ辞任もあり、岸田内閣の支

持率が急落するなど大いに混乱をもたらしました。

医療界におきましては、なんと言ってもコロナ禍への対応に追われた1年でした。私たち医師会をはじめ、医療従事者は国民の皆様のご協力の下、ワクチン接種体制の充実、検査診療医療機関の拡充、入院受入病床の確保に努めてまいりました。新規感染者数は増大するものの、ワクチン、維持療法、治療法の進歩などもあり、致死率は低下してきております。

また一昨年末、昨年年初と大阪府、埼玉県において患者及び医療従事者の安全・生命が脅かされる重大事件が相次ぎ発生いたしました。これに対し日本医師会長名で警察庁長官に対し『医師会及び医療機関への安全確保に資する支援について』と題する文書を送り、警察庁から各都道府県警察に周知文書が発出されました。これを受けて当会と北海道警察とでも綿密に打ち合わせを行っております。

そして、2024年から始まる医師の時間外労働時間上限規制に対しても医師派遣受入機関に対する情報提供や宿日直許可取得のお手伝い、医療機関勤務環境評価センターサーベイヤーの推薦等を積極的に行ってまいりました。同時に始まる第8次医療計画に対しても、厚生労働省からの指針も出されており、それを受けて二次医療圏見直し等を検討してまいりました。また、2025年からの地域医療構想も新興感染症対策も加味した構想の練り直しとなっております。

多くの課題はありますが、本年もコロナ禍対策に一層の力を注ぐことはもとより、幅広く医療従事者の安全確保を図り、また医師の働き方改革や、第8次医療計画策定ならびに地域医療構想の作成へ努力してまいります。更には喫緊の課題としての医師会の組織強化にも、会員数の確保を中心に取り組みます。そして訪れるであろうポストコロナを期待しつつ、各都市医師会との連携、連帯を密にするとともに北海道医師会員の北海道医師会でありたいと思っております。更には、北海道の医療を道民の安心安全のため発展拡充を図るとともに、道民の健康保持増進に寄与してまいりたいと存じます。

会員諸氏のご理解とご支援をお願い申し上げますとともに、本年が会員並びにご家族、職員、道民の皆様にとって明るい展望が開ける年となりますよう祈念し、新年のご挨拶といたします。